

無^む駄^だ安^あ留^る記^き隊

報告書

2007

鳥取大学地域学部地域文化学科二〇〇七年度地域文化調査

無駄安留記隊

報告書

2007



『無駄安留記』原本（鳥取県立図書館所蔵）

はじめに

二〇〇五年度より始まった地域文化学科の「地域文化調査」も三年が経過した。米逸処が今から約一五〇年前に残した『稲葉佳景 無駄安留記』の記述や絵を手がかりに調査をつづける無駄安留記隊は、初年度の邑美郡、昨年度の岩井郡につづき、本年度は法美郡をとりあげた。法美郡とは鳥取市国府町を主とする地域で、地形的には袋川水系の上・中流域にあたり、東端に扇ノ山がそびえ兵庫県と接している。このかなり広い地域を、学生と教員が一年で四回あまり訪れ実地調査を行うとともに、さまざまな文献を参照してできたのが今回の報告書である。また、付録として『無駄安留記』そのものの法美郡の部分の翻刻を掲載した。そちらも一覽いただければと思う。

さて、無駄安留記・上巻の法美郡の部は、矢津（現立川町）の稲葉神社を冒頭に、合祀された立川天満宮と稻荷神社、滝山耕月寺、卯垣安禅寺と、市内周辺の社寺を並べ、地誌らしい形式で始まる。ところが、その直後、名所なのか何かよくわからないへタネ阪に触れて狂歌を詠み、名物「宇部の三度栗」が項として立てられるなど、いきなり無駄安留記らしさ、つまり地誌らしくない部分があらわれる。次に、現在岩美町が観光地としているカキツバタの唐川、その道中の村雨古墳とかなりの遠出をした後、再び市内周辺に戻る。宇倍神社と卯垣爵山城跡、さらに勘違いなのか安禅寺をもう一度取りあげ、そのまま足を榎峠に向け百谷の柳原寺と利右衛門の家についてふれる。続いて、法美往来⇄雨滝街道を十王峠、さらに但馬との国境の蒲生峠へと向かい、街道周辺の名所・旧跡が並べられていく。土堂薬師（学行院）、甕山砦跡の二ヶ所から始まり、

岡益石堂、新井石舟、梶原橋、荒船崩御宮と安徳伝説に関係する四ヶ所がつらなる。上流に進んで、上荒船子守権現、拾石譚含寺、楠城村（絵のみ）と続く。現在も観光地である雨滝および周辺の諸滝までは鳥取市内からだ約二〇キロあるので、当時だと日帰りは難しかっただろう。行程はさらに続き、十王峠、峠を越えたところの鸚鵡石および強盗石窟、最初は法美郡だと逸処は誤解していた岩井郡牛峯の絵、さらに蒲生峠を越え見た但州遠望の絵。この旅の終わりには扇ノ山が描かれている。

雨滝街道周辺を上巻でとりあげたのに続いて、下巻では郡の西端を南北に走る若桜街道沿いの名所・旧跡にたちよる。余戸の風宮と古墳、正蓮寺多門寺毘沙門天と奥の桜、紙子谷意上奴神社などである。名所でも旧跡でもなさそうな柵宜谷をとりあげているのは、これも狂歌を載せるためだろう。

拾遺巻には、まず池田家墓所があり、杉崎露の井戸、庄山香盆石、三谷山福田寺、腰折地藏、法花寺、国分寺跡、無量光寺と並べたあとに、安徳伝説が数ページにわたって書きつづられる。最後に法美郡と八上郡の境の三本松についてわずかに二行の記述をし、法美郡の部は終わる。

以上の四〇あまりの名所・旧跡のすべてを今回の調査できたわけではなく、何の手がかりのつかめなかった鸚鵡石や強盗石窟のようなところもあった。つまり無駄安留記に書かれている中で、実際に行けたところ、そしてなんとか文章にできそうだったところがこの報告の二〇ヶ所であると、そう思っって本篇を読んでいただけると幸いである。

（地域文化学科教員 茨木透）

目次

はじめに

iii

『稲葉
佳景 無駄安留記』調査報告（法美郡篇）

……

1

稲葉天社

3

竹島山松雲寺・稲荷明神

5

安禅寺

7

へタネ阪

9

柳原寺

10

土堂薬師

12

甑山砦

14

新井石舟

16

梶原橋

18

普眼寺

20

楠城邑

22

雨飛泉

23

	風宮祠	25
	多門寺毘沙門天王	27
	意上奴神社	29
	三谷山福田寺	31
	腰折石尊	33
	法花寺・国分金光明寺址	35
	腰折石尊	33
コラム	調査の記録	37
コラム	地域文化調査発表会	38
付録	翻刻『稲葉無駄安留記』法美郡	39
	
おわりに		57

